



「節目」 ～1年間ありがとうございました～

校長 中村 行雄

「節目」とは、「木材や竹の節のあるところ」「物事の区切り目」という意味が辞書に載っています。「人生の節目」というような使われ方もします。

「人生の節目」では、入学、卒業、就職、結婚などがあげられるでしょうか。1年では、お正月、大晦日や、立春、立夏、立秋、立冬などの暦（こよみ）が節目としてあげられます。一方、子どもたちの学校生活では、4月の学年の始まり、夏休み前後、冬休み前後、そして、その学年の終わりが「区切り目」であり、「節目」だと考えられます。

では、子どもたちの学校生活では、「節目」とはどのような意味があるのでしょうか。大きく考えれば、「振り返り、確かめ」と「新たな決意でのスタート」ではないでしょうか。例えば、夏休み前では4月から自分ができるようになったことを振り返り、確かめて夏休みを迎えます。そして、夏休み明けには、夏休み前の成長した自分からスタートができるように新たな決意をもちます。その中で子どもたちは、自分の成長を支えてくれた仲間や大人に感謝する気持ちをもつことができます。その繰り返しが、子どもたちの成長にとっては欠かせないものだと考えます。

そして、学校生活の中での最大の「節目」が卒業式と修了式です。昨日の卒業式では、6年生は立派に南小学校を卒業していきました。彼らが手にした卒業証書には、「小学校の課程を卒業したことを証する」という言葉があります。小学校の学習や活動を全て終え、中学校に進学する最大の「節目」です。6年生は6年間の自分の成長を確かめ、自分のまわりの仲間や大人に感謝しながら堂々と卒業していきました。5年生はその6年生の様子を式場で実際に目にするによって、新6年生になる決意を確かなものにできたと思います。このように子どもたちの大きな「節目」となる卒業式だからこそ、歩き方から椅子の座り方までそれにふさわしい言動が求められます。違う見方をすれば、そのような言動が卒業式という「節目」のねうちを高めるとも考えられます。さらに、卒業式の下校はこれまで6年間通った道を歩いて、自分の成長を確かめ感謝の気持ちを持ちながら家に帰る6年生もいたかもしれません。これも「節目」のねうちを確かなものにすることになります。

子どもたちにとって大切なのは、「節目」の意味を十分に理解し、その「節目」にふさわしい振る舞いができることではないでしょうか。そして、私たち大人は折に触れてその意味を子どもに語り、あるべき姿と一緒に考える役割があるのではないのでしょうか。

今日の修了式でも同じ話を子どもたちにしました。本日配布した一人一人の通知表には、「〇年生の課程を修了したことを証する」という言葉があります。その学年の学習や活動を全て終え、次の学年に進学することができるということが記されています。ご家庭で修了証を見ながら、お子さんと一緒に「節目」について考えていただくようお願いいたします。1年間ありがとうございました。